

# 社会教育



県立図書館  
子どもの本がつなぐ「スマイルプロジェクト」の様子

## CONTENTS

- ◆ 論 説 ..... 2  
「読書ボランティア、学校司書に期待すること」  
国立大学法人福島大学名誉教授  
福島県子ども読書活動推進会議委員長 高野 保夫
- ◆ 特 集 ..... 3  
「子どもの読書活動推進の取組」  
・第三次「福島県子ども読書活動推進計画」  
・子どもの夢をはぐくむ読書活動推進事業  
＜事例紹介＞  
白河市立白河第三小学校
- ◆ 輝け！社会教育 ..... 6  
須賀川市小塩江公民館  
相馬市立飯豊小学校・幼稚園PTA  
三島町学校支援本部  
南会津郡伊南婦人会長 馬場二三子
- ◆ 平成26年度社会教育関係各種受賞者 ..... 8  
平成27年度福島県社会教育施設行事予定



読書活動支援者育成事業  
「ステップアップ研修」の様子

学校における多様な読書活動の取組が広がり、保護者や地域のボランティアと学校、図書館等との連携による活動の推進、さらに市町村における子ども読書活動推進計画の策定率の増加等、子どもの読書活動の大切さに対する認識が広まっています。

福島県教育委員会は、平成27年2月に第三次「福島県子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちが読書の楽しさを実感し、生涯にわたって望ましい読書習慣を身に付けることができるよう関係機関や各種団体等と連携・協力し、さらに子どもの読書活動を推進してまいります。

## 「読書ボランティア、学校司書に期待すること」

国立大学法人福島大学名誉教授  
福島県子ども読書活動推進会議委員長

高野 保夫 氏



子どもたちの読書環境が大きく変わりつつある。大震災と原発事故以降、国の内外からの寄贈図書を活用する、読書ボランティアの被災地訪問を積極的に受け止めるなど、読書活動活性化の動きが着実に広がっている。福島県も読書機会の充実等の基本方針を基盤にした第三次子ども読書活動推進計画を策定し、新たな方向性を打ち出そうとしている。

ここ数年の読書環境の変化の中で特徴的なことは、読み聞かせや昔語り等を中心としたボランティア活動の裾野の広がりである。それらの団体の多くは、子どもの本の選書、読み聞かせの技術、科学読み物の取り上げ方、魅力ある図書館づくりなど、地域の実態や課題に応じた取組を意欲的に進めている。それらの背景には、読書ボランティア養成の基礎研修とその後の専門性を高めた研修を継続的に実施する、子ども読書推進のシンポジウムを開催するなど、県が進める各種事業の力も大きく作用しているに違いない。

第三次計画が掲げる「ふくしまの未来をひらく読書の力」という目標達成を目指すためには、ボランティアの人材確保が難しい、自主的団体と公共図書館や学校との連携が円滑でないなどの課題はあるものの、学校図書館を核とした人的連携の強化や事業予算の配分等の工夫を重ねることで、より地域密着型の活動を促していくことができるであろう。

読書環境の第二の進展は学校司書の配置である。特に、新年度からの5年計画で学校司書を県内全校に配置するという第三次計画の目標は、福島県が学校図書館法の改正を積極的に受け止めた結果である。学校図書館のあり方や読書活動の活性化を目指すとき、学校司書の果

たす役割は決して小さくない。

現に、新しく学校司書が配置された学校では、学校図書館の環境整備が急速に進むとともに、子どもたちの読書支援を通じて学校図書館の利用者が増え、本の貸出率も大幅に増加するなどの好ましい変化が生まれている。また、学校図書館の年間運営計画の策定や授業の関連教材の事前準備が進み、教師の授業支援の体制強化も図られるなど、学校教育全体における学校図書館機能の再発見が行われ、司書の仕事や役割についての認識が深められているのは喜ばしいことである。

今後は、全校配置に向けた人材の確保、司書の資質・能力向上に向けた専門的研修の環境整備、待遇の改善などの課題も少なくないが、学校図書館法の改正の主旨や司書の専門性や有効性を考慮したとき、一日も早い学校司書の全校配置が強く望まれる。



### プロフィール たかの やすお

1989年 福島大学教育学部教授  
1997年 教育学部附属教育実践総合センター長  
2009年 福島大学名誉教授  
2013年 伊達市教育委員会教育委員長

専 門： 国語科教育学、教育実践学  
著 書： 『開かれる地平』（民報印刷刊）ほか





## 特集 子どもの読書活動推進の取組

### 第三次「福島県子ども読書活動推進計画」

福島県教育委員会は、すべての子どもが読書の楽しさを実感し、生涯にわたって望ましい読書習慣が確立できるよう、第三次「福島県子ども読書活動推進計画」を策定し取組を進めています。平成27年2月に策定された第三次計画は、第二次計画の計画期間における成果と課題を踏まえ、今後おおむね5年間の本県における子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性や取組を明らかにしております。

#### ふくしまの未来をひらく 読書の力

平成22年3月から実施された第二次計画期間の取組により、学校における朝の一斉読書や多様な読書活動への取組が広がり、ボランティア等と学校、図書館との連携による読書活動が推進されました。さらに市町村における子ども読書活動推進計画の策定率の増加が見られる等、子どもの読書活動の大切さに対する認識が広まってきました。

一方、乳幼児期から本に親しませることの大切さを保護者に理解させる必要があること、学校段階が進むにつれて子どもの読書離れが顕著になる傾向が見られること、学校図書館の活用を推進していくための人的配置が必要であること、さらに、東日本大震災に伴い避難を余儀なくされている自治体への図書館活動の再開を踏まえた継続的支援が必要であること等が課題となっています。

このような第二次計画期間における成果や課題を踏まえ、「ふくしまの未来をひらく 読書の力」を基本理念に掲げた第三次「福島県子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動の推進に取り組んでいきます。

#### 3つの基本方針と10の推進の方策

基本理念を実現するため「子どもが読書に親しむ機会の充実」、「子どもの読書環境の整備と充実」、「子どもの読書活動についての理解の促進」の3つの基本方針と10の推進の方策を立てて、取組を推進していきます。

具体的な取組として、高校生によるビブリオバトルの実施等、特に中高生に対し本や読書への関心を高める機会を設けたり、学校司書の配置を促進し、子どもの読書活動を支える人的環境の充実に努めたりするとともに、新しい子ども読書活動推進計画のダイジェスト版を作成し、子どもの読書活動の意義や重要性についての理解を広く県民に周知したりしていきます。

福島のすべての子どもが読書の楽しさを実感し、生涯にわたって望ましい読書習慣を確立できるよう、学校、家庭、地域がそれぞれの役割や責任を明確にし、社会全体で子どもの読書活動を推進します。



【ブックスタート】



【図書館でのおはなし】



【学校での一斉読書】



## 特集 子どもの読書活動推進の取組

### 子どもの夢をはぐくむ読書活動推進事業

子どもたちが、あらゆる機会とあらゆる場所において読書に親しむことができるようにするため、環境の整備を推進することが重要となります。そのため、福島県教育委員会は子どもの読書活動を支える人の研修の機会の充実に努めています。



#### 子ども読書推進シンポジウム

第二次「福島県子ども読書活動推進計画」期間中の成果や課題を洗い出し、第三次計画に反映させるとともに、広く県民に対して、子ども読書活動について理解を促すことを目的に今年度7月5日（土）郡山市のビッグパレットふくしまで「子ども読書推進シンポジウム」を開催いたしました。

秋田大学教授の阿部昇氏による『「国語力」トップクラス・秋田県学力向上の秘密』と題しての講演や文部科学大臣表彰を受賞した県内の読書ボランティアによる実践発表、そして、読書ボランティア、公立図書館司書、家庭教育関係者、PTA関係者による子ども読書推進シンポジウムを通し、社会全体で子どもの読書活動を推進していくことの重要性について確認できました。



【子ども読書推進シンポジウム】

#### 読書活動支援者育成事業

今年度は、基礎知識や読み聞かせの技術向上に向けた講義等、基礎的・基本的な内容で構成し、主に読書ボランティア初心者やこれから活動に関わろうとする方を対象にした人材育成基礎研修（研修A）と、すでに学校や図書館等で読書ボランティアとして活動し、さらに専門的な知識や技能を高めたい方を対象に、子どもの発達段階に応じた内容や専門性を深める内容で構成したステップアップ研修（研修B）を開催いたしました。

教育事務所ごとに7地区で開催した研修Aでは、講義以外に地区内の公共図書館や学校で活動する読書ボランティアの事例発表を取り入れたり、地域の課題に関する内容について交流したりと各地区ごとに特色ある取組がありました。

また、県内4会場で開催した研修Bでは、「乳幼児期、学童期の選書と子どもの本について」、「思春期の選書と子どもの本について」、「赤ちゃんとの本との出会い」、「科学読み物について」、「手遊び・わらべうた」、「おはなし会プログラムの組み立て方」等、今まで実施がなかった専門的な講義・演習を実施しました。

さらに、交流会の時間を設け、それぞれの立場での子ども読書の取組の成果、悩み、これからの夢等の様々な意見や情報の交換を行い、充実した時間を共有することができました。



【人材育成基礎研修（研修A）】



【ステップアップ研修（研修B）】

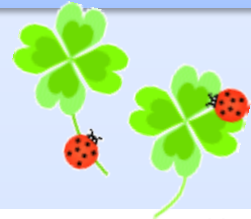




## 事例紹介「学校司書配置校の取組事例」

白河市立白河第三小学校

### 「学校司書」が配置になりました！



白河市の取組で、11月より本校に学校司書が配置になりました。市内の小中学校で一番最初に配置されましたので、リニューアルオープンセレモニーを、市長さん、教育長さん、市立図書館長さん、PTA会長さんをお招きして行いました。開館後、毎日、図書室は大賑わいです。今まで本の整理や図書の貸出し等、図書委員会の活動で思うようにできなかったことが、学校司書が配置になったことで見事に変わったからです。

まずは、子どもたちが借りる図書の数が大幅に増えました。図書室を訪れる児童も増えました。それは、市立図書館と同じようにバーコードで貸出しができるようになったことや学校司書が借りたい本をすぐに探してくれることが大きな要因です。図書室の環境も見違えるほど変わりました。本棚の本の並び方、本の紹介コーナーや掲示物等、本を探しやすくなり、掲示物も子どもたちの興味を誘うようなものになりました。



【図書室での本の貸出しの様子】

また、学校司書が配置されたことで、児童会の図書委員会の児童が委員会の仕事に意欲的に取り組むようになりました。学校司書が配置されたことで、すばらしい効果が表れています。

今後の目標としては、授業で図書を効果的に活用するために、担任が学校司書と事前に相談をし、必要な本を市立図書館や県立図書館等から手配できるようにしていくことです。

学校司書が配置されてまだ数ヶ月ですので、これからも司書教諭と連携しながら図書館教育の充実に向けて進めていきたいと考えています。



【図書室の本棚】

### 白河市立白河第三小学校

所在地：〒961-0914

福島県白河市寺小路64-2

電話：0248-23-3243

FAX：0248-24-0296

<http://www.shirakawa3-e.fks.ed.jp>

E-mail:school@shirakawa3-e.fks.ed.jp



# 輝け！社会教育

—活動事例紹介—

## 地域の教育力向上を目指して



須賀川市小塩江公民館

小塩江公民館では、「地域づくりは人づくりから」をモットーに事業を展開しています。特色ある事業として、家庭教育講座について紹介します。

幼児虐待が騒がれ始めた平成14年、“お母さんが輝けば子どもも健やかに育つ”との思いから、子育て支援講座「きらりんこたいむ」が始まりました。子連れのお母さんが、年7回の体験型学習を通じ、リフレッシュ、スキルアップを目指す、母親のための母親が主役の講座です。保育サポーター8人（大半が講座修



【「きらりんこたいむ」の様子】

了生)が子どもたちを見守っている間、お母さんは安心して講座に集中できます。

平成20年に修了生を中心に立ち上げた「きらりんこサークル」は、毎月1回自主的に活動し、今では会員が、市の家庭教育インストラクターや「きらりんこたいむ」の講師を務めるまでに成長しています。

今後も地域の方々と連携を深め、地域住民が主体となって地域づくりに取り組めるよう努めていきたいと思っています。



【保育サポーターによる保育】

## 継続と進化で未来につなぐPTA活動



相馬市立飯豊小学校・幼稚園PTA

PTA活動の名誉である「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞でき、嬉しく誇りに感じています。

これは、PTAの果たすべき役割を長年地道に継続してきたことが今回の受賞につながったものと考えています。

とりわけ大震災以降「地域の子ども達は宝であり、自分達で守り育てる」という信念で、学校と地域と一体となって活動に取り組みました。

地域と連携した資源物・エコキャップ等の回収や安全ボランティアの見守り活動といった取組を進めてきました。また、創意工夫した学年ごとの親子ふれあい活動なども継続して進めてきました。さらに、復興関連車両の増加の危険から、通学路途



【通学路の放射線測定】

実現や、保護者の放射線不安への対策として、通学路の放射線量測定に取り組む等地域の強い結びつきに支えられて活気ある活動ができました。

その中で、被災地である相馬地区のPTA活動が活発であることは、とても大切なことであることを実感しています。

地域の復興と、子どもたちに希望と夢を育んでいけるのは私たち大人の団結力です。今後も受賞を誇りに「継続と進化で未来につなぐPTA活動」を推進して参りたいと思います。

今やれることを共に考え、共に取り組んで行くことの決意を新たにしたところです。



【資源物回収】



# 輝け！社会教育 —活動事例紹介—

## 三島町学校支援本部の活動



三島町学校支援本部

三島町学校支援本部は、平成23年度から活動を開始し、小学校の体験活動における授業補助や中学校での部活動支援、学校行事支援などを行っています。小学生の登下校時の見守り活動や学校の環境整備などで年々支援範囲を広げているとともに、町民が自発的に活動する場面も多くなり、新たな企画にも積極的な参加が見られます。特に、当町は学校給食が牛乳だけのため、月2回程度

の「お楽しみランチ事業」をスタートさせ、地域のボランティアの方々が手作りの温かいおかずを提供しております。



【田んぼの学校】

その他としては、田んぼの学校や自分の住んでいる町を勉強する地区探検など、様々な地域の方々が率先して町の宝である子どもたちのために一丸となって取り組む活動となっており、ボランティア活動への参加率も年々高まっています。

今後は、地域の方々が重荷に感じることはないよう、そして、支援内容について得意分野を生かし気軽に参加できるよう、コーディネーターを中心に取り組んでいきたいと考えています。



【おばあちゃんの味】

## 社会教育功労者

### 文部科学大臣表彰を受賞して



南会津郡伊南婦人会長 馬場 二三子



この度、社会教育功労者の表彰を受け、身に余る光栄な事と恐縮し、多くの皆様のご指導ご支援の賜と心より感謝を申し上げます。

思えば平成7年福島国体の春、県より婦人会が依頼を受けた大事な事業が始まる時、会長になる人が無く、当時事務局の私に教育委員会より、リーダー無き婦人会に国体だけ乗り切りたいと強い依頼があり、勤務の傍らやむなく引き受けました。国体が終了してからも変わる人も無く20年にもなります。

その間、私が立ち止まると後ろから押してくれる人、突っ走る時ストップを掛けてくれる人、両脇を支えて頂き、5年後には県婦人団体の役員として15年の月

日が流れました。

17年に「北方領土ビザ無し交流」に「択捉島」「色丹島」に参加できたことは貴重な体験でした。また、地域子ども教室の実行委員長として、立派なコーディネーターのもと「わんパークいな」を開設できたのも嬉しいことでした。

日々ボランティア活動に追われ、2月28日私の団体（婦人会、スポーツ民謡会）が知事感謝状をいただきました。

これからも地域のために見極めの人生に努力したいと思います。





# 平成26年度社会教育関係各種表彰受賞者

表彰区分	被表彰者氏名・被表彰団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	○元三島町社会教育委員 佐藤 朋義 ○南会津郡伊南婦人会長 馬場 二三子 ○国立磐梯青少年交流の家施設業務運営委員会委員 鬼多見 賢 ○国立那須甲子青少年自然の家ボランティア 武内 正壽	12月5日	文部科学大臣
優良公民館	○須賀川市小塩江公民館 ○南相馬市高平生涯学習センター ○福島市吾妻学習センター	3月4日	
優良PTA	○白河市立五箇幼稚園PTA ○相馬市立飯豊小学校・幼稚園PTA ○須賀川市立仁井田小学校父母と教師の会	11月19日	
優れた「地域による学校支援活動」	○西郷村放課後子どもプラン ○三島町学校支援本部 ○本宮市学校支援地域本部 ○郡山市三穂田地区学校支援地域づくり	12月8日	
子どもの読書活動優秀実践 図書館・団体（個人）	○田村市図書館 ○新地町読書活動ボランティア	4月23日	
優れた「早寝早起き朝ごはん」 運動の推進にかかる文部大臣表彰	○白河市幼・小・中・高 PTAの集い	3月12日	
社会教育功労者	○元郡山市社会教育委員の会議議長 國馬 善郎 ○南相馬市生涯学習推進委員委員長 大場 盛子	11月4日	福島県教育委員会
功績顕著な団体・施設	1 団体 ○田村市立芦沢小学校PTA ○新地町立新地小学校父母と教師の会 ○南郷ジュニアレーシングスポーツ少年団 2 施設 ○郡山市立桃見台地域公民館 ○福島市杉妻学習センター ○郡山市立柴宮地域公民館 ○会津若松市立会津図書館	11月4日	
全国社会教育委員連合	○元白河市社会教育委員 鈴木 きよ子 ○いわき地区社会教育委員連絡協議会長 神山 敬章	10月23日	一般社団法人全国 社会教育連合会会長
日本PTA全国協議会	1 団体 ○小野町立浮金小・中学校PTA ○南相馬市小高区五校PTA連絡協議会 2 個人 ○福島県PTA連合会前会長 佐藤 辰夫 ○福島県PTA連合会前母親代表理事 川島 久美子	11月19日	(公社)日本PTA 全国協議会会長
東北地区 社会教育委員連絡協議会	○元東白川地区社会教育委員連絡協議会副会長 佐川 桑雄 ○北塩原村社会教育委員 東條 嘉子 ○双葉地区社会教育委員連絡協議会長 岡田 常雄	11月13日	東北地区社会教育委員 連絡協議会

# 平成27年度福島県社会教育施設行事予定

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
<p>*「受賞児童図書展」 平成27年4月3日(金)～5月6日(水)</p> <p>*「春の朗読会」平成27年5月31日(日)14:00～</p> <p>*このほか県立図書館では、県民皆様の文化環境充実のため、「連続講座」と「文化講演会」を実施します。日時・テーマ等が決まりましたら、随時お知らせしますので、当館ホームページ等でご確認ください。</p>	<p>平成27年度は空調改修工事のため休館します。移動美術館展を福島県立博物館、須賀川市立博物館等で開催予定です。</p>	<p>○ふるさと会津の人と四季 ー福島県立美術館名品展ー 5月2日(土)～6月21日(日)</p> <p>○福島県浜通り地方とは？ ～被災地からの考古学1 7月18日(土)～9月13日(日)</p> <p>○相馬中村藩のひびとー藩主・寺院・料理方ー 10月10日(土)～11月29日(日)</p>	<p>○郡山自然の家オープンデー 9月13日(日)</p> <p>○会津自然の家あったかふれあいまつり 10月18日(日)</p> <p>○いわき海浜自然の家春のオープンデー 5月24日(日)</p> <p>詳しくは各自然の家ホームページをご覧ください</p>

## 福島県社会教育委員

\* 任期：平成26年6月20日～平成28年6月19日

阿久津文作・五十嵐敦・加藤久尚・川島宏・菅野論・小林清美・佐藤晴美・佐藤房枝・津田 智  
遠野馨・中田スウラ・新井田 萬壽子・二谷京子・星尚子・山岸波・渡辺直也 (五十音順)

## 編 集 後 記

本年度335号を迎える本誌のテーマは「子ども読書」。震災から4年。福島は復興に向け、一步一步前に歩み続けています。その中で、改めて気づかされたことがたくさんありました。「読書の力」もそのひとつであります。傷ついた心を癒やしてくれたり、養えた心に勇気を与えてくれたりした本や絵本。読書活動は子どもたちが未来へ向かってたくましく生き抜くための活力の源となることが改めて認識されました。「ふくしまの未来をひらく 読書の力」。これは今年2月に策定された第三次「福島県子ども読書活動推進計画」の基本理念です。この計画を指針として、県教育委員会は県民のみなさんとともに子どもの読書活動を推進していきたいと考えています。最後に、日々御活躍されている方々から、お忙しい中、第335号「社会教育」に御執筆をいただきましたことに対し、心から感謝申し上げますとともに、読者の皆様がそれぞれの地域や立場でより一層御活躍されることをお祈りいたします。

平成27年3月26日 発行

社会教育  
No. 335

編集 社会教育課  
発行 福島市杉妻町2-16  
福島県教育委員会